

戦国悠久ロマンの里 一乗谷

— 一乗谷朝倉氏遺跡とともに —

一乗公民館

1 一乗地区の概要

一乗地区は、JR 福井駅から東南東へ約 12 km に位置し、7 つの町内からなっている。周囲は緑豊かな里山に囲まれ、一乗谷川の清流に沿って南北に細長く伸びた静寂な中山間地である。

地区内に、国の特別史跡・特別名勝・重要文化財の三重指定を受けた一乗谷朝倉氏遺跡がある。その歴史的価値は大変高く、全国から注目されている。特に唐門付近は、春の咲き誇る薄墨桜や糸桜、夏の深緑、秋の色とりどりの紅葉、そして冬の白銀に染まる雪景色など、四季折々、季節感あふれる情景が美しく、訪れる人の心を和ませている。近くにある一乗滝も景色が美しく、夏には涼を求め多くの人を訪れている。

このような歴史と自然に加え、復原町並みや遺跡の整備が進み、観光に訪れる人が増加傾向にある。また福井市のゆるキャラ朝倉ゆめまるが誕生するなど、福井市の主要な観光地の 1 つとなってきた。平成 16 年 7 月 18 日の福井豪雨では地区全体が壊滅的な被害を受けたが、多くの支援と協力により見事に復興し、平成 21 年 6 月には第 60 回全国植樹祭の会場にもなった。

一方、少子高齢化や過疎化が一段と進み、地区にとって厳しい状況が続いている。平成 30 年 9 月 1 日現在、人口は 789 人、世帯数は 294 戸である。

2 伝統を守りつつ、地区を活性化！

人口減少が年々進んでいる中、特に若い人に「住み続けたい町」と思ってもらえるよう、地区や公民館では仲間づくりや地域づくりをさかんに行っている。また、一乗地区に親しみをもつ人（関係人口）を増やしたいと、1 年を通して様々なまつりやイベントを地区総出で行うなどして、活性化を図っている。

(1) 後世に引き継ぎたいふるさとの伝統行事

地区内には古くから行われている伝統行事がたくさんある。それぞれ、なつかしいふるさとを思い起こす夢のある行事として後世に引き継いでいきたいと、運営方法などを工夫しながら開催している。

その中の「したんじょうまつり」は、鹿俣(かなまた)

地区に 400 年以上続く伝統行事で、県の無形民俗文化財に指定されている。長年、子どもの手から手へと受け継がれ、今は毎

年 5 月のこどもの日に行われている。子どもたちが殿様や家来に扮してイノシシ狩りの行列を再現し、「したんじょう、したんじょう」と大きな声で連呼しながら 1.5 km を練り歩くまつりである。列の最後尾には、マンサクの葉などで作られた体長 3~4m の大きなイノシシの作り物が、大人の男性に担がれて続いていく。

このように、伝統やまつりを継承するため、地区だけでなく一乗地区全域から子どもの参加を募ったり、大人が手助けをしたり、工夫をしながら行っている。

(2) 地域のすばらしさを伝え、関係人口を増やすイベントの開催

一乗地区の自然や歴史を発掘しそれらを地区外の方にも親しんでもらえるよう、地区のメインである一乗谷朝倉氏遺跡などを会場として、1 年を通してイベントを開催している。

春は、糸桜まつりや曲水の宴、夏は、朝倉戦国まつりや万灯夜、そして秋には、朝倉トレイルランを行っている。公民館も実施に関わっているが、一乗谷朝倉氏遺跡保存協会が中心となったり、足羽 6 地区と美山地区が連携したりして、多くの地域団体や地区民を巻き込んで開催している。他にも、地区の有志が源氏がタル鑑賞会を行っている。



【地区内を練り歩く手作りのイノシシ】



【越前朝倉万灯夜 灯りの道】

これらに県内外からたくさんの方が訪れ、一乗地区のよさを楽しんでいる。

3 地域の歴史・文化を学び、人をつなぐ

少子高齢化や人口減少、過疎化現象などが顕著になり、持続可能な地域コミュニティの形成が地区の課題となっている。また、地区の文化や歴史を再発見し、それを人と人の交流や学びにつなげ、楽しい場をつないでいくことが地区の願いである。

そこで、公民館では、住民同士の交流を促し仲間づくりの場となる教育事業を工夫し支援している。

(1) 地域の子どもを地域で育てる家庭教育



【仲よし田んぼでの稲刈り】

高齢者から児童までの世代間交流の1つとして、小学校と連携した事業を行っている。田植え、稲刈り、収穫祭などの年間を通しての稲作体験や、保護者と地

区民が語り合う「一乗っ子を語る会」などである。

地区の高齢者や保護者、そして子どもたちが、共に活動し、地域のよさを学び合い伝え合うことを通して親睦を深めている。

(2) 地域の環境と食文化を学ぶ「せせらぎ学級」

地区の婦人たちが日頃の食生活で感じている矛盾に対し、「何とかせんとあかんの！」と、環境と食生活をテーマに学習を重ねている。



【一乗谷雪んこ会 かきもちづくり】

主な内容は、節電、糖尿病予防の食事、食の安全などで、地域の自然を守り、地域の食材や伝統料理のよさを受け継ぎ広めていく活動につながるものと考え学び合っている。

また、数年前にこの講座から発展した「一乗ふるさと料理クラブ」では、報恩講や法事の精進料理など、地元で受け継ぐ伝統料理を「朝倉膳」として県内外に発信している。他にも「一乗谷雪んこ会」がもち米を

使った加工品作りに取り組み、一乗地区の米のおいしさと伝統食を地区外にもアピールしている。

(3) 一乗の特性を生かし楽しむ郷土学習「清流大学」

この教育事業は、年齢や性別に関係なく、一乗地区について楽しみながら学ぶとともに、親睦を図ることを目的としている。一乗谷朝倉氏遺跡の語り部として活動している地区の方から話を聞いたり、みんなで実際に地区内を歩いたりして、地域の歴史や文化などを発掘するとともに、地域について語り合い、楽しく学んでいる。

(4) 三峯城跡の歴史、再発見！

登り口のある鹿俣地区の住民が「鹿俣町文化と自然を守る会」を立ち上げ、登山道の整備や歴史の学習に意欲的に取り組んでいる。



【三峯城跡 脇屋義助の石碑】

三峯城は、南北朝時代、平泉寺の僧によって築城され、脇谷義助が合戦の拠点にしたと言われている戦略上の要所であった。その歴史を思い起こすとともに、山頂からの眺望を楽しめるように、三峯城の登山道を整備し、探索ウォークを開催している。

4 終わりに

公民館では、一乗谷朝倉氏遺跡や地区の伝統などを要とし、地区の活性化に関わって歩んでいきたいと考えている。そのためにも、この遺跡をどのように活用して地域の活性化につなげるかなど、自治会連合会や各種団体と連携しながら進んでいきたい。

今後も、地区の人々のつながりや思いを尊重し、地区の将来像をみんなで考え、話し合いながら公民館活動を企画し進めていきたい。

一乗谷朝倉氏遺跡の他、地区内のそれぞれの町内の歴史や文化、人々の暮らしや思いをつなぎながら、活動している一乗公民館。温かくなつかしい地区が、学びを通して活性化し、地区内外のたくさんの方々の心のふるさととして、いつまでも残っていくことを願っています。